

第4回芹ヶ谷公園再整備基本計画懇談会 議事要旨

日時：平成27年8月12日（水） 9：30～11：30

場所：町田市役所 2階 2-3.2-4会議室

出席者	委員	真野洋介、海老塚耕一、天野真、伊藤弘一郎、高橋倫正、稲木健志、岩崎俊男、野澤滋享（8名、敬称略）
	事務局	公園緑地課、企画政策課、未来づくり研究所、文化振興課、市立博物館、国際版画美術館、地区街づくり課、生涯学習総務課、防災安全課 株式会社 協和コンサルタンツ
公開・非公開	公開	
傍聴人数	1名	

◆ 次 第

1. 開会あいさつ
2. 議事要旨確認
3. 市民意見募集の結果について（報告）
4. 芹ヶ谷公園再整備基本計画（案）について
5. その他（次回懇談会の日程等）

都営高ヶ坂団地跡地の名称について

- 都営住宅の跡地の名称について。都営高ヶ坂団地跡地とあるが都営住宅跡地ではないのではないか。高ヶ坂団地は別にある。都営住宅跡地の方が混乱しなくて良いのではないかと。
- 名称については検討する。

整備の方向性について

■ 整備内容の表し方について

- 市民意見は数が多い意見の方が重要な意見という訳ではなく、全体の意見を踏まえてもう少し練っていかなければならない。整備計画で考えること、管理運営で考えることがある。また、その他の意見の中で、利用者や関係する人たちの意見をどのように取り入れるのか。今後の運営における示唆も示しているため、これを考えた方がよい。色々な人に公園を使ってもらい、質の良いものにしていくため、市民参加をどのようにしていくのかが重要な視点である。反対意見についても運営でフォローできる部分もある。
- 芝生広場や遊具の設置、ふわふわドームやアスレチックの施設の設置など、現段階で決めるのか、それとも、基本設計・実施設計において再度検討するのか、事務局で整理した方がよい。

■ 図面での表し方について

- こういう機能があったら良いというものがあるが、配置図として描くと大変である。図面には描かず、こういう利用もできるとして項目を残す。

■ 遊び場について

- 私は、以前にふわふわドームなど子どもの遊び方の研究をしていた。外で遊ぶ機会が減っており、日常生活とは違う体験ができる遊具の設置は良いのではないかと。気をつける点は、周辺の幼稚園児や保育園児の安全な利用であり、有益な遊び方の指導が必要。子供の遊び方にアートを盛り込んで。例えばふわふわドームに絵を描く。ダダで利用できる遊具は良いが、大事に使わなくなるので大事に使える様な工夫がほしい。

■ バーベキュー広場について

- バーベキューは大きなブームになっており、昭和記念公園では予約がとれず大盛況である。運営・管理の方法については、有料にすることで対処方法や課題に対する対応も明確になる。
- バーベキューはブームであるが、ルールを守らない人が多いのが残念である。ルール化してマナーを良くすれば良い施設となる。匂いの問題は難しい。
- バーベキューでは利用数を限るなどの措置も必要である。
- バーベキューや駐車場については、地元の意見をもっと聞くべきであり説明も必要。出来れば良いなという希望もあるが、だからといって直ぐに作ることもできないものでもない。
- バーベキューやカフェは良い。地元だけでなく他の人も来てほしい。町内会イベントでは、食べ物があるイベントは人が集まる。バーベキュー広場は良いのではないかと。匂いの問題もあるが考えればよい。楽しみがある方がよい。目玉になるのではないかと。

■ 自然を生かした遊び場を

- そのままの自然を活かす意見が多いと感じた。芝生広場やキャッチボールの意見。作られたものではなく、自然を活かした遊び方の意見は良いと思う。冒険遊び場については声が多い。自然を活かした遊び場所を重視してほしい。

■ 駐車場について

- 多目的広場の隣に噴水があり、沢山の人が訪れている。本来は入ってはいけないが、規制が効かない状況にある。ほとんどの方は車で来るが、駐車場が満車になってしまうため、路上駐車が続かない。町田荘跡地があるが閉鎖されていてここが利用できれば良い。
- アクセスルートの改善は是非やらないと。駐車場の問題もあるため、バスを入れないとだめかなと思う。

■ ふわふわドームについて

- ふわふわドームの価格や維持管理にかかる費用はどれくらいか。わからない。
- ふわふわドームの維持管理費について、国営のアルプスあづみの公園では、テントは7年くらいで張り替え、減価償却費用を含めて年間370万円である。

■自然を活かす整備について

- ▶ 自然を活かしたいということは、地元からも声があって、蛍を持ってきたりなど続けていたが、だめになった。「検討して参ります」とあるが実現できるのか。

■芝生広場について

- ▶ 庁舎跡地について、地元では独自にアンケートを行い、公園名の提案もあった。結果的に芝生広場になった。ほとんど使われていない。今回も芝生広場になっているが、かなりの広さなのでお金がかかる。大規模にやらない方が良いのでは。
- ▶ 芝生広場については、樹木など木陰があると良い空間になる。

■回遊性、アクセス性について

- ▶ 人の流れ、回遊してここまで来られるかが重要。ここの場所を目指してくれると良い。
- ▶ 動線計画で気になった点。南西側のバリアフリー。線路の跨線橋は無関係ではないのではないか。線路の向こう側のバリアフリーは考えなくてよいのか。考えると複雑になってしまうか。
- ▶ 線路からくる部分については、おそらく現在の公園の高さを考えると、線路の下に行くのではないか。対岸に受けの用地をどうするのか、今後の課題として残る。
- ▶ 動線計画。非常に重要なのは、町田のポテンシャルであり、町田はポテンシャルが非常にあると思う。駅から繋がる3本のルートが重要である。上乘せして考えてもらえれば。芹ヶ谷公園再整備の範囲から外れるかもしれないが、中心市街地からつながるルートに関わる色々な情報を踏まえて考えては。芸術の杜のテーマを引き込んで、いつのまにか公園に入っていたという公園になれば良い。
- ▶ 動線については、アクセスのためのサインが大事である。外から来た人が、買い物のついでに訪れるということが出来る。アトストリートなど、駅から来るまでの道中もあれば、アートが活きるのではないか。
- ▶ 動線について。町田街道のオレンジの丸の所に信号ができた。良い場所かなと思う。文学館通り、原町田通りや沿道の商店も考えなければ。非常に難しい事ではあるが。商店街と一緒に作るのは難しい。物を置くだけでなくそういうことも必要である。
- ▶ 4ページの資料については、路線北西側の住民は、線路の上の橋を渡って線路沿いを通り、クヌギの広場から来ている。かなり急であるが、このルートも動線として表示して欲しい。また、主要線が途中で途切れている箇所がある。回遊するような回遊動線をつくってはどうか。
- ▶ 動線は重要な視点である。施設への動線と、散策ができて回れることをしっかりと示した方がよいのではないか。それぞれのゾーンの主要ルートにループ上でつながる動線を表現した方がよい。
- ▶ 橋を渡ってクヌギの広場から来るルートについて事務局から説明はあるか。
- ▶ 公園への動線設定については、中心市街地からのアクセスを表現している。

■カフェについて

- ▶ コミュニティカフェは市民が運営するカフェである。非営利団体や市民に任せることで、色々な活動の場として使えるということがある。公園の中だとあまりないが、施設の中で指定管理でやっている例がある。

■アートを活用、取り込み方について

- ▶ グラフィティーアートは、それほどいいものではない。若者のアート感覚だけでなく老人のアート感覚も重要であり、どういう風に引き付けるのが重要である。福島県の須賀川や相馬で子ども達の美術の鑑賞教育を行っている。原発事故の関係であまり外で遊べないが、旗づくりをしたら、旗を振りまわして大人も子どもも喜んで遊んでいた。そういう遊びを刺激する場が必要である。
- ▶ どういう整備をするかではなく、どのような場所として使いこなすかが重要。今後の運営でもこの場所を使うだけではない想像力を引き出すようなものが必要ということではないか。
- ▶ アート展示スペースとはどのようなものか。わき水に沿ったアートとは。
- ▶ わき水ゾーンの中のアートイベントスペース設置の経緯についてお聞きしたい。
- ▶ アート展示スペースは、何かを作ったりということではなく、期間限定での学生などのアート展示を考えている。細かく内容を決めているものではないが、管理運営の段階で考えていければ。
- ▶ 直ぐに学生に展示を、とあるが、それでは良い作品が集まらない。どこに行っても学生に、という話があるが、まち興しにならない。成功しているところは、例えば市民が展覧会を開催している所。ドイツの成功例としては、10年に1回、町中に彫刻が展示される。良いものを集めるのは10年かかるということである。そういう場所になるべき。一度見ればもう来ないようでは駄目である。須賀川でも彫刻が10体程の展示されていたが、市民は馬鹿らしいとの感想である。そういうものでは町が荒廃する。良いものにゆっくりと触れ合えればいい。また、公園利用の目的が彫刻の鑑賞ではなくても、彫刻に触れることで、公園にある彫刻の作者の作品がほかの場所があれば公園に対して愛着が出てくる。そういう場所にしなければならぬ。公園全体が作品の発表の場となれば良い。ただし、彫刻はメンテナンスがすごくかかるため、彫刻の数が多いとメンテナンス費が多くなり、それでは他の事が出来なくなる。
- ▶ 彫刻は数より、良いものを選んで置く。地域に根ざした作者の作品より、世界中の良いアートを選べば、世界中から人が来る可能性がある。例えば、上野公園の西郷隆盛の像は、彫刻作品、美術作品としては重要な像だが、今はあまり人が見ず、上野のシンボルではなくなっている。重要な彫刻であることを伝えていく必要がある。芹ヶ谷公園は、国際版画美術館があり、（仮称）国際工芸美術館もできるので、もうひとつの柱として、大きな町ぐるみの展覧会などを企画して、それを作っていく場のひとつが芹ヶ谷公園だということをやっていくとリピーターが増える。企業が行った直島の例は、世界中から観光客が来る。日本の作家にも良い作家がたくさんいる。佐久島の例は、世界で有名な作家を展示しようとしたがうまくいかなかった。30代の方が会社を立ち上げて彫刻を展示する取り組みをしたら、島中が公園になって、世界中から人が訪れることとなった。
- ▶ アート展示スペースであるが、アートを展示する催しは、版画美術館の中で行われている。年に1回開催されている。
- ▶ 彫刻を増やしたほうが良い。公園にある「開かれた宇宙」の作者の家には、彫刻が沢山ある。活用してもらった方が良い。新庁舎の際にも活用してほしいとの要望を出した。
- ▶ 庁舎での彫刻の活用とは？何年くらい前か。
- ▶ 二年前に申し入れをしたが、お金がないと断られた。

■ドックランについて

- ▶ 公営の公園にドックランを入れることへの意見はあるか。
- ▶ ドックランの整備はどうかと思う。

- 最近の公園ではドックランが多い。子どもが少なくなり犬を連れていくことも多い。問題は、噛んでしまう事故や衛生上の問題。この計画では端に設置されているため、なぜかと思う。
- 犬を放して遊ばせることにするのか。
- 上の方が犬の散歩が多い。ドックランはどれくらいの大きさなのか。
- 空いている所に作る場合が多いのでは。カフェとの組み合わせなど多くの人が利用できるようにするとよい。この場所で良いのか。

■防災機能

- 避難する場所にはかまどベンチを設置するとのことであったが、アートイベントゾーンにも防災用品が必要ではないか。
- 災害時は広いスペースがあるだけで良い訳ではなく、緊急車両のアクセス、屋根がある場との関係がある。建物とオープンスペースと緊急車両のアクセスがうまく連携していなければ。基本設計の中でも検討していけると思うが、防災部局との調整や社会実験や防災訓練などが必要ではないか。報告書に入れておくべきである。
- ソフト的に検討していきたい。

■多目的広場ステージについて

- 多目的広場のステージは、この場所で決定したのか。桜祭りなどの関係を含めてここにした理由とは？
- ステージの場所はここという訳ではない。平場でありここで表記している。これからも検討していきたい。
- 設置場所については、考えがあったのか。
- ステージが設けられる場所として、ここは少しくぼんで平地になっており、地形的な観点からもこの場所が良いとして描いた。
- 現地調査をして皆で見れば良いのは。意見を聞きながら検討した方が良い。

公園のマネジメント・運営について

- 気になることとして新国立競技場の話題がある。運営に難がある、お金が掛かり過ぎるなど、後から色々な問題が出ている。芹ヶ谷公園では再整備の計画を積み上げているが、お金の問題、管理運営をセットで考えないと問題である。今のうちにイメージしなければならない。
- 指定管理制度は行き詰っていると感じている。管理運営の検討を含めた上で、今後も地域の意見を取り入れることが重要。
- 完成後のチーム編成、管理運営が重要だということであるが、何か事例はあるか。
- 兵庫県の有馬公園など、プロデュース的なもの。バラバラになりがちなので、まとめる個人やチームが必要である。町田の規模ならできるのでは。
- 全部が計画通りにできるのか。将来的に人口が少なくなり、財政も厳しくなる中でどういう計画となるか。ある程度、民間が運営するという気がする。

課題への対応について

- 気になることは、資料「6.運営管理項目と課題等」「7.スケジュール」である。検討課題は誰がいつ解決するのか示すとよい。課題は5つくらいに分けられる。1つ目は、庁内で見当すべき課題。予算や技術的な問題。2つ目は、市民との連携。利用者と話しあえば解決できる課題。3つ目は、整備計画の段階では煮詰めることは出来ないが、基本設計・実施設計の段階で解決できる課題。4つ目は、運営形態、組織、体制を考える中で解決できる課題。5つ目は、社会実験。来年度は設計となるが、出来上がった時に直ぐに動き出せる体制を作る。まずかった点、うまくいった点を、試しにやってみることで分かる事がある。子どもの遊び場としては、ワークショップでも出来る。アートの取り組みもやってみることが出来るのではないか。全てをきちんと対応していく必要はないが、ある程度、課題を解決できる道筋をつけるべきである。せつかく、色々検討したのに最後にこれができないともったいない。今後の問題がでてくるかもしれないので考えておくべき。
- 色々な段階において、「誰」が「いつ」が明確となっていなかった。報告書では方向性は導いていきたい。実際やることは来年となるかもしれないが、方向性は示していきたい。
- 検討課題の対策については、基本・実施設計を行った段階でのスピード感が大切である。時間が掛かると課題が変わっていくため、この後をお願いしたいことは、実施の段階でスピーディーにやってもらいたい。

整備テーマ・愛称について

- 目指すテーマがあるが、これが市民意見によって壊れるのはおかしい。テーマに沿った中で要望に応じてはどうか。そういう観点で意見が取り入れられるのは良い。ただ、設置することで、将来に何かがあった時や臨時で何かを設置する時に不具合が生じることが心配である。
- 公園内容が色々詰められており、幕の内弁当的になっているため、テーマを決めると分かりやすいのではないか。今示されている方針の文章が長いのもかもしれない。
- テーマは短い方が良いとのとであるが、何かご意見はないか。
- 前回は言ったが、愛知県のもりころパークのような愛称。まちアートパークなど、あてはまるものがあれば。
- 名称というか愛称ということか。
- 市民に募集してはどうか。
- 再整備テーマからは、ふわふわドームなどは浮かび上がってこない。浮かび上がらなければ、必要ない施設である。導入するならばテーマや市民意見との調整が必要である。
- テーマ、機能、動線を検討している。再整備は大きな柱を掲げる事であり、これを忘れてはいけない。色々検討したが、そこは忘れてはいけないことである。市民への対応も同様で、意見交換は継続していくべきである。

地元説明、市民意見への対応

- 意見が沢山ある。意見は全部取り入れられているのではないか。意見の数が少なかったという事であるが、出来上がっている公園であることから、意見を出しにくいのではないか。
- 冒険遊び場を作ったが、住民には何の説明もなかった。住民の声を聞く事が大事。都営住宅跡地は、以前に市がパークゴルフを作りたいと住民に説明し、反対された。住民の意見を聞いていく事が欠けている。市民の意見を聞くのであれば、期間が短かったのでは。もっと意見が出ると思う。
- 公園の再整備で意見を集めることは良いことである。他の自治体では、再整備の意見を聞かない所が多い。すごいなあと関心している。
- 市民の意見は非常に重要である。今回の計画は色々な公園で成功した例のつぎはぎであり、知的想像力がないことへの批判ではないか。賑わいは、色々と考えて工夫して遊ぶ所。成功例のつぎはぎでは、新しい公園は生まれないのではないか。町田が発信する場所であるため、市民がこういう意見を出したことを喜ばなければならない。
- 現在は基本計画の段階なので、計画のすべてを固めず、市民意見を取り入れながら、想像力の余地を残しておくことが大切であると感じた。
- この意見に対してこうします、ということも大事であるが、今後の使い方を考えていきます、という前文も必要であり、見せ方が大切である。懇談会の意見として出してもらいたい。
- 運営方法だが、冒険遊び場やひだまり荘など運営が個別になっている。広い公園を運営するのは大変なので、運営について検討する場合は地元の意見を聞いてもらいたい。

その他

■懇話会の運営について

- また、現地をみたり、芹ヶ谷公園で参考になるような公園を視察するなど工夫があっても良い。

■周辺の土地利用について

- 町田街道から公園までは、戸建てが多かったが、近頃はマンションが多い。公園側はマンションを低くしてもらいたいという要望は出している。

■地元要望について

- 芹ヶ谷公園については、暗い、トイレが汚い、駐車場の問題など、地元では以前から要望していた事である。